

(4) 特別支援教育研究会（特別支援学級）

会 長 東 千恵（下田小学校）
副会長 下山 歩（西土佐中学校）
事務局 山田 凌大（具同小学校）

1. 研究主題 「特別な支援を必要とする子どもたちがいきいきと学べる授業づくり」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和4年 5月6日（木）	四万十市教育研究会組織総会 ・役員選出、研究主題の設定、年間計画	中村南小学校	
6月2日（木）	第1回 サークル連絡協議会	四万十市教育研究所	
8月5日（金）	四万十市教育研究会 夏季研修会 講話 「特別な支援を必要とする子どもたちが いきいきと学べる授業づくり」について 講師 中村特別支援学校 大崎 珠紀先生 西部教育事務所 奥宮 智子指導主事	四万十市防災センター (防災準備室)	23名参加

3. 夏季研修会

中村特別支援学校より大崎珠紀先生、西部教育事務所より奥宮智子指導主事を迎え、研究テーマである『特別な支援を必要とする子どもたちがいきいきと学べる授業づくり』について講話をしていただいた。

そこで、特別支援教育の意味やインクルーシブ教育について、また特別支援学級における教育課程や学習上の特性など幅広く学ぶことができた。具体的には、①特別の教育課程を立てるにあたり、各教科の目標・内容を下学年や特別支援学校における教科の目標・内容に替えることができる。②教科の目標・内容は段階別に書かれているため、どの教科の目標と関連づけるかを明確にしておかなければならない。その際、PDCA サイクルを用いて適宜評価を行いながら授業改善に繋げることが重要である。③各教科の学習における児童の困り感を少なくするためにも自立活動などを通じて学習の基盤を育てる必要があることを説明していただいた。

また、個別の指導計画を適宜加筆・修正しながら来年度に引き継ぐことがより良い指導・支援に繋がることも学ぶことができた。

後半には、講話についての質問と、事前に参加者から募った教育活動における困り感について、お二人の先生方にお答えいただいた。そこで、学習意欲を高めるための指導方法や、ICT・端末内のアプリを活用した授業実践、生活単元学習や日常生活の指導における目標の立て方などについて、教えていただいた。実践に即して共有していただいたので、2学期に是非活かしていきたい。

4, 成果と課題

(成果)

- 自立活動の計画の立て方や評価の仕方などが具体的で分かりやすかった。自立活動の例を参考に学級に合わせながら工夫し実践していきたい。
- 日々の実践の中で各教科がメインとなってしまう、自立活動が児童にとって最適な学びとなっていないこともあるような気がした。自立活動の時間を確保し、計画的に学習を進めていきたい。
- ICTを使った授業づくりに悩んでいたが、教えていただいたアプリや実践をぜひ活用していきたい。

(課題)

- 換気の設備やプロジェクター等の入念な準備ができなかったため、事務局の勤務校を会場にした方が良かった。講師の先生に快く講話をしていただくためにも、余裕を持った会場準備ができれば良かった。
- 参加者（教員）同士で話し合いをしたり、情報交換をしたりできればよかった。（今年度はコロナ感染状況を鑑み、対話活動を中止した。）

～研修の様子～

